

理想の社会を実現するために

花巻中学校 3 年 阿 部 奏

もし、私たち学生誰もが等しく質の高い教育を受けることができ、病気になったりケガをしたりしても経済的な心配なく安全に治療を受けられ、誰もが安心して老後を過ごせる社会があったとしたら、それはどんな社会なのでしょう。私はこのような社会を実現するためには、一人ひとりが社会全体を支え合うしくみが必要不可欠だと思います。そして、その基盤となるのが、公平で公正な『税』であるべきです。税を単なる「負担」と捉えるのではなく、「未来への投資」と捉えることで、より豊かな社会を築いていくことができるのではないのでしょうか。この考えを深めていく中で、教育水準の高さや福祉の充実度が知られているフィンランドに注目しました。フィンランドの税制は私が理想とする社会を具体的に示してくれていると思えました。

フィンランドの税制について調べてみて一番驚いたのは、日本の消費税にあたる付加価値税が二十四パーセントということです。しかもその税金の七十パーセント以上が社会保障や教育、医療に関することに使われているそうです。そのことから、高い税率がかけられた一方で、国民のための充実した社会保障制度がとられていることがわかりました。しかしこれほど高い税負担が国民にのしかかっていると、不満を待つ人が多くてもおかしくないと思いました。ですが、私の予想とは裏腹に、アンケートによると国民の九十六パーセントが納得して税金を払っていると回答していました。また、小学校から大学までの学費が無料であり、高齢者の家賃およそ八割を国が負担していて、高齢者へのケアも充実していました。フィンランドが世界幸福度ランキングで首位を維持している要因として、国民が税負担に対して高い理解と納得感も持っている点が大きいと言えるでしょう。

フィンランドの事例は、税が単なる負担ではなく、国民の生活の質を向上させ、社会全体を豊かにするための投資であるということを明確にしています。私たちの日常生活は当たり前のように享受している多くのサービスに支えられています。これらのサービスが可能になっているのは税金があるからです。税金と聞くと「高い」「複雑」といったネガティブなイメージを抱く人が多いと思いますが本当にそうでしょうか。税の負担感ばかりが強調され、税がもたらす恩恵が見えにくくなっているのではないのでしょうか。フィンランドが豊かさの源泉として税を位置づけ、その恩恵を国民が享受している事実を知り、私はこれまでの税に対する固定観念が大きく揺さぶられました。私たち一人ひとりが税のもつ力を理解し、積極的に未来を創造する主体となることこそが誰もが安心して過ごせる豊かな社会を築くための第一歩となるでしょう。